

2018 年度総会議事録

日 時：2018 年 9 月 7 日（金）13：05～13：55

会 場：神戸国際会議場 1 階メインホール

議 長：仲嶋一範 大会長

副議長：和田圭司 理事長

出 席：出席 63 名、委任状 164 名（会員総数 1,215 名・議決権数 931 名・定足数 93 名）

議 事：

1. 理事長報告

和田圭司理事長より、第 61 回日本神経化学会大会大会長である仲嶋一範大会長へ謝辞が述べられたのち、以下のとおり報告があった。

- ・理事長就任時より臨んでいる 3 つの課題、「本学会財務の健全化」、「本学会内の透明化」そして「本学会のブランディング化」については引き続き努力をしていきたい。
- ・今年度 10 月に、Neurochemistry International 誌において本学会発足 60 周年を記念した特集号が発刊された。

上記報告ののち、これから控えている理事選挙に向けて、議場へ投票するよう呼びかけた。

2. 庶務報告

小泉修一庶務担当理事より、会員状況について報告があった。また、物故会員 3 名に対し黙祷を捧げた。

3. 会計報告

議長の仲嶋一範大会長より、詳細については議題第 8 及び第 10 項にて報告のうえ、審議とする旨説明があった。

4. 出版・広報報告

澤本和延出版・広報担当理事より、以下の通り報告があった。

今後の機関誌の発刊予定は、2018 年 12 月発刊の『神経化学 Vol.57 (No.2) 2018』、としているが、冊子体での発刊は本号で最後となる。新年度 2019 年より『神経化学 Vol.58 (No.1) 2019』の発刊月は 6 月となり、またはオンラインジャーナルとなる。しかしながら、冊子体も継続して製作し、希望者へは有料での発送を実施する予定である。その際の申込用紙は、次号『神経化学 Vol.57 (No.2) 2018』ならびに本会ホームページへ掲載する。

5. プログラム編成報告

仲嶋一範大会長より、第 61 回大会開催状況について、以下の通り報告があった。

- ・大会直前の大型台風通過とそれに伴う高潮による冠水に伴い、プログラム集の水没による再印刷手配、大会物資未到着による現地での再調達などの甚大な被害があったが、関係者のご協力による迅速な対応によりなんとか開催することができたことを感謝したい。
- ・若手道場については例年の形式より少し工夫を加え、また発表のみならず、若手が質問をする練習の場となるよう配慮した。

- ・教育講演として、精神科領域、神経内科を含むその他の臨床領域、および基礎領域の3つをセットにして毎日開催する企画とした。

6. 各種委員会報告

①将来計画委員会

橋本亮太委員長より、以下の通り報告があった。

- ・今大会の若手研究者育成セミナーは今年度より寄付金が設けられ、若手道場とともに順調に運営されている。また、今大会において、若手研究者育成セミナー出身者により企画シンポジウムも採択された。
- ・出版・広報委員会およびブランディング委員会と連携し、若手研究者育成セミナーの活動を進めている。
- ・その他引き続き、本委員会内では若手を活性化させる仕組みの検討や、若手研究者育成セミナー出身者企画シンポジウムの恒常化に努めていく。

②国際対応委員会

和中明生委員長より、以下の通り報告があった。

- ・今年度より、海外在住会員が日本に帰国し大会で発表するための旅費の補助を目的として設置した「鍋島トラベルアワード」については、2名の応募があり両名受賞となった。来年のNeuro 2019への応募については学会ホームページやメール配信等で周知する予定である。
- ・ISN2019大会は、2019年8月4日～8月8日までモンテリオールで開催予定である。Travel Awardの応募についても学会ホームページやメール配信、Facebook等で周知する予定である。
- ・前項のISNモンテリオール大会でISN現理事の改選となり、本学会の馬場広子ISN理事が任期満了となる為、本会後にその後任となる理事候補者を選出する予定である。

③出版・広報委員会

澤本和延委員長より、以下の通り報告があった。

- ・機関誌に加え、ホームページやSNSを活用し学会の情報を発信している。
- ・ホームページではNeurochemistry International誌において本学会発足60周年を記念した特集号が発刊されたため、トップページにバナーを掲載している。
- ・バナー広告は現在2件掲載している。
- ・今大会より対応しているプレスリリースについては、7件の研究発表について各種報道機関へ配信した。

④研究助成金等候補者選考委員会

尾藤晴彦委員長より、以下の通り報告があった。

会員よりの学会推薦への応募件数を増やすべく、その広報手段等について出版・広報委員会とも連携しホームページの改善等を進めていく予定である。

⑤シンポジウム企画委員会

佐藤真委員長より、以下の通り報告があった。

- ・今年度理事会企画シンポジウムは本日(9月7日(土))14時より、タイトル「オートファジー分子から神経疾患治療まで」とし、シンポジストは荒木敏之先生(国立精神・神経医療研究センター)、村松一洋先生(自治医科大学)、斉木臣二先生(順天堂大学)、水島昇先生(東京大学)の内容で開催予定である。

- ・2018年度の理事会企画シンポジウムについては、明日の委員会にて検討予定であるがNeuro 2019ということで、日本神経科学学会との差別化を図っていきたいと考えている。

⑥脳研究推進委員会

白尾智明委員長より、以下の通り報告があった。

- ・脳科学関連学会連合および生物科学学会連合についてどのような形をとっていか検討している。
- ・脳科学関連学会連合については今期より山脇成人先生（日本神経精神薬理学会）が連合代表に、和田圭司理事長が運営委員に就任された。
- ・脳科学オリンピックについては、Brain Beeの実態について引き続き注目していきたい。
- ・国際生物学オリンピックについては、これより理事会に諮る予定であるがワーキンググループを設置しより良い作問をしたいと考えている。

⑦連合大会・多分野交流委員会

木山博資委員長が欠席のため、和田圭司理事長より、以下の通り報告があった。

- ・今大会における連合大会・多分野交流委員会シンポジウムは昨日（9月6日（金））に、タイトル「A new era of life science research via cooperation and integration with data science」とし、シンポジストは島村徹平先生（名古屋大学）の内容で開催された。
- ・Neuro 2019における第62回日本神経化学学会大会における本企画については、菅裕明先生（東京大学 大学院 理学系研究科・理学部）に依頼する予定である。

⑧ダイバーシティ推進委員会

東田千尋委員長より、以下の通り報告があった。

- ・本学会全会員へ実施したアンケート結果を学会ホームページへ掲載予定である。
- ・本大会では大会長のご協力の元、Web上での演題登録時に「アンケートの形」で実施した大会における参加者の属性調査ならびに託児所の設置について、次大会でも継続して実施していただきたい。
- ・今年度より設置した「子育て支援篤志基金」では今年度の応募は無かったが、次回は周知徹底および利用内容の拡大等を検討していきたい。
- ・Neuro 2019においてダイバーシティシンポジウムの企画について検討する予定である。

⑨利益相反委員会

工藤喬委員長より以下の通り報告があった。

現在本学会で運用している指針について改定事案は無いとしているが、日本医学会より利益相反の管理ガイドラインに沿って、本学会指針においても必要に応じて改定を検討する。

⑩ブランディング委員会

今泉和則委員長より、以下の通り報告があった。

- ・情報発信力の強化として、議題第6-③項にて報告があったとおりプレスリリースを行った。プレスリリースについては次年度以降も実施したい。
- ・若手育成ならびに基礎と臨床の連携強化について検討をしている。

⑪臨床連携委員会

望月秀樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・2019年5月開催の日本神経学会学術大会にて広報すべく「いまからでも遅くない。3学会プレジデントが語る基礎研究の魅力」をテーマとしたシンポジウムを企画し、若手世代に認知を広めるということで和田圭司理事長にご講演いただく予定である。

- ・臨床系学会学術総会と本学会大会開催時期が重なる為、将来的には開催時期をずらすことが可能か検討したい。

⑫倫理委員会

島田昌一委員長より、以下の通り報告があった。

今年度より、会員の行う研究に関して倫理的な問題が生じた場合に対応できるよう設置した。

状況に応じ利益相反委員会と合同で委員会を開催し対応する予定である。

7. 2018 年度優秀賞・奨励賞選考結果報告

竹林浩秀委員長より、本年度受賞者について以下の通り報告があった。

【優秀賞】1名

氏 名：七田 崇

所 属：東京都医学総合研究所 脳卒中ルネサンスプロジェクト

テーマ：脳梗塞における無菌的な炎症メカニズムの解明

【奨励賞】3名

氏 名：高野哲也

所 属：Department of Cell Biology, Duke University Medical School

テーマ：脳構築における神経細胞の極性形成と維持機構の解明

氏 名：藤田 幸

所 属：大阪大学大学院医学系研究科 分子神経科学

テーマ：中枢神経回路形成と修復過程におけるゲノム高次構造変動

氏 名：森澤陽介

所 属：東北大学大学院生命科学系研究科 超回路機能分野

テーマ：脳梗塞後の貧食性アストロサイトによる脳内再編とその分子基盤の解明

(50 音順/敬称略)

8. 2017 年度決算の件

馬場広子会計担当理事より、2017 年度決算について報告があり、異議なく承認された。

9. 同監査報告

田代朋子監事、遠山正彌監事とも欠席の為、両監事の指名により、和田圭司理事長より以下の通り報告があった。

2017 年度収支内容及び財産状況について、適性である旨確認したとのことである。

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

10. 2019 年度予算の件

馬場広子会計担当理事より予算案が提案され、本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

11. 評議員選任の件

小泉修一庶務担当理事より、新評議員として以下の1名が理事会より推薦された旨報告があった。

酒井 規雄 広島大学大学院 医歯薬保健学研究所

※任期：2021 年総会終了まで

(敬称略)

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

12. 功労会員推薦の件

小泉修一庶務担当理事より、功労会員として以下の4名が理事会より推薦された旨報告があった。

稲垣 忍 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻

井上 和秀 九州大学

高橋 正身 北里大学医学部 代謝・蛋白質学

平林 義雄 理化学研究所 脳科学総合研究センター

(50 音順/敬称略)

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

13. 会則改定の件

小泉修一庶務担当理事より、理事会での審議を踏まえ以下の通り会則の改定案（下線箇所改定）が提示され、議場に諮ったところ、異議なく承認された。

会則：

第3章 会員

第14条 長期海外留学等の海外居住や産休・育休等で、一時的に学会活動が困難となる場合、休会届を提出した上で休会できることとする。海外留学等終了後には、ただちに本会活動に復帰する旨申し出なければならない。

なお、休会中は次の通り取り扱うこととする。

1. 年会費は免除する
2. 機関誌「神経化学」は配布しない
3. 大会等本会主催の集会等の参加費は非会員扱いとする
4. 総会議決権は有しない
5. 役員等の選挙権および被選挙権は有しない
6. 日本神経化学会優秀賞ならびに奨励賞の応募資格は有しない
7. 休会期間は会員歴に含めない

ただし、次の場合は休会を認めない。

1. 年会費を滞納しているとき
2. 休会中常時連絡可能な連絡先（日本国内住所・電子メールアドレス等）を申し出ないとき
3. その他本会理事会にて不適当と判断されたとき

第4章 役員、評議員および職員

第23条 評議員の任期は4年とし、再任を妨げない。評議員には第21条、2. 3. 4. 項の規定を準用する。評議員は就任する時期に満70歳未満とする。

第5章 会議

第33条 総会は、正会員、功労会員、シニア会員及び若手会員の現在数において十分の一以上出席しなければその議事を開き議決することが出来ない。ただし当該議事につき委任状を提出したものは出席者とみなす。

14. 次期大会および開催地の件

那波宏之第 62 回大会長より第 62 回日本神経化学学会大会について、以下の通り報告があった。

<Neuro2019 (第 42 回日本神経科学大会：第 62 回日本神経化学学会大会)>

テーマ：飛翔する脳科学：命と心の接点

会 期：2019 年 7 月 25 日 (木)～28 日 (日) ※4 日間

場 所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

〒950-0078 新潟市中央区万代島 6 番 1 号

大会ホームページ：<http://www.neuro2019.jnss.org>

公募シンポジウム募集期間：2018 年 8 月 1 日 (水)～10 月 9 日 (火) 正午

続いて、馬場広子第 63 回大会長より第 63 回日本神経化学学会大会について、以下の通り報告があった。

<第 63 回 (2020 年度) 大会>(単独大会)

会 期：2020 年 9 月 10 日 (木)～12 日 (土)

場 所：いちょうホール (八王子市芸術文化会館) を予定

〒192-0066 東京都八王子市本町 24 番 1 号

15. その他

和田圭司理事長より、議題以外の報告事項とし、以下の通り報告があった。

・鍋島トラベルアワード事業基金について

鍋島俊隆先生からの申し出により日本神経化学学会に新しい基金「鍋島トラベルアワード」を創設することが出来た。「鍋島トラベルアワード」は現在海外に留学している会員 (休会中も含む) が一時帰国して日本神経化学学会大会において演題を発表するに当たっての旅費を補助するものである。今後この鍋島トラベルアワードの募集は毎年行う予定である。

・子育て支援篤志基金について

同基金は今年度より新たに設置し、子供を帯同しないと大会に参加出来ないという会員を支援する主旨により設けた。しかしながら、日本学術振興会へ確認したところ、各学術総会に参加する際の旅費の支援が科研費より可能である旨回答を得た。その為、同基金の利用内容の拡大等をダイバーシティー委員会で検討するよう依頼している。

・若手研究者育成セミナーにおいても、今年度より寄付金が寄せられるようになった。同セミナーの運営を毎年円滑に実施したい。

・これより理事選挙が控えており、前回より同選挙は立候補制となった為、奮って立候補してもらいたい。

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、2018 年度総会を閉じた。